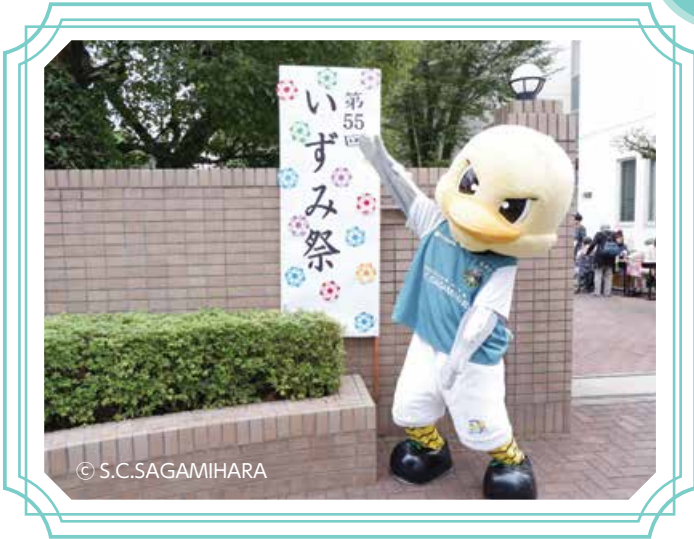




いずみ祭



CONTENTS

2024年度 聖句

「主よ、お話してください。
僕は聞いております。」
(サムエル記上第3章9節)



- 南相馬スタディーツアー..... 2
- 現任研修&公開講座、いずみ祭..... 3
- 表彰者..... 4
- 卒業生の活躍、TOPICS..... 5

南相馬スタディーツアー



2024年は能登半島地震に始まりました。その光景をニュース映像で見ていると私が

経験した東日本大震災・原発事故と重なりました。このような大規模災害の光景を目の当たりにするたびに、私が被災地の保育現場で経験した3・11後の保育者の働きについて、保育者養成に携わる者として語り伝えていくことが大切ではないかと考えさせられます。

被災地の保育現場では、子どもたちの命を守り、保護者に寄り添いながら失った全てのものや環境を取り戻すだけでなく多職種連携のもと新しい保育を展開していかざるを得なかった保育実践があるからです。今思えば被災地の保育は危機管理や安全対策を中心に整えながら保育を展開していったから、その点においては時代の先端を行っていたのではないかと思います。3・11から約10年後に新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こり新しい生活様式なるものが求められることとなりましたが、福島では既に目に見えないウイルスではなく、目に見えない放射線と闘っていました。

今後、日本では少子化、人口減少、働き手の不足や首都直下型地震や南海トラ

フ地震、富士山の噴火などが起こることが予想されています。福島で何が起こり、その時保育者はどう対応したのかという保育実践を記録と教訓を通して保育者を志す学生さんに伝承していくことが世界初の地震、津波、放射線、風評という複合災害を経験した者としてのミッションであると考えます。2023年8月に2泊3日の行程で第1回南相馬スタディーツアーを実施させていただきました。2024年8月は2回目の実施となりました。共に事前学習、現地学習、事後学習振り返りと必ずみ祭での発表の三部構成のプログラムです。今回は事前学習と現地学習についてご紹介させていただきます。

事前学習では、いわき市の私立幼稚園での被災状況、放射線被曝から子どもたちを守るための取り組みや環境整備、外部の専門家との連携協働による保護者支援などの保育実践を紹介し、東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授開沼博先生から「福島の現状」というテーマでご講義いただきました。現地学習1日目は、双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れて展示から災害の概要を見学して、語り部さんから話を聞きました。2日目は、日本キリスト教団原町教会での礼拝から始まり同教会関係施設の原町聖愛こども園と聖愛ちいさな園にて参加実習をさせていただきました。夕方には3・11後に南相馬市に移住して新たな活

動を始められた方と東京での活動拠点を再び生まれ故郷の南相馬市に戻して活動されている地域の方々から実際にお話を聞き、ディスカッションをして考えるところ、交流会がありました。この交流会には南相馬市こども未来部の方々にも加わっていただきました。3日目は、いわき市へ移動して小名浜港マリンパーク内にある、いわき・ら・らみゆうにて、『3・11いわきの東日本大震災展』の展示を見学して、実際に小名浜港に津波が押し寄せた痕跡を見て、3・11当時の小名浜港と復興した小名浜港の様子を見て、考える時をもちました。

福島に実際に足を運ぶ教育旅行、見て・聞いて・考えるアクティブラーニングを福島県では「ホープツーリズム」と名付けているそうです。本学独自の南相馬スタディーツアーは正に「ホープツーリズム」そのものであることを後に知りました。

「ホープツーリズム」を標準登録する福島県観光物産交流協会によると、「福島の『ありのままの姿』と『復興に向け果敢にチャレンジする人々との対話』を通し



て、震災・原発事故を『福島だけのローカルな問題(他人事)』と限定せずに教訓等を『持続可能な社会・地域づくりの実現、日常生活、自分自身の行動変容等』のこれからの未来に視野を広げ、自分事としてどう活かすのか探求・創造する一連のプログラム」とあります。

3・11当時、福島で何が起こり、特に福島第一原子力発電所から北へ約30kmの位置にある保育施設で、原子力災害の最前線で、子どもたちの命を守り保育を継続してきた南相馬市の保育実践から学ぶことには大きな価値があります。この「ホープツーリズム」のアクティブラーニングを通して、どのような状況にあっても子どもたちを愛し、命を守り、仕える保育実践から学びを深めて本学のスクーラム・モットーである「愛と奉仕」を実践し地域貢献できる保育者養成の一助になることを願っております。



准教授 吉田久仁子

2024年度現任研修&公開講座 「こども支援の今ー保育・福祉の連携の中で 「こども丸ごと」を支援する視点を学ぶー」

教務部長 山本美貴子

2024年8月31日(土)第2回現任研修&公開講座「こども支援の今ー保育・福祉の連携の中で「こども丸ごと」を支援する視点を学ぶー」を開催しました。

プログラムの詳細はパンフレットをご覧ください。本講座は昨年度第1回につき、地域の保育福祉実践現場、教育機関、行政機関からお支えいただき2万人を超える卒業生のもとで実践者として活躍する本学の特色を生かしたりカレント教育プログラムとして企画、当日は112名(本学卒業生50名、在学生7名、その他55名)の参加者を得て盛会裏に終えることができました。参加者の所属は幼稚園4名、認定こども園16名、保育所25名、児童福祉施設24名、里親・ファミリーホーム4名、その他の児童福祉関連15名、児童以外の福祉関連3名、学生9名、その他記述なし12名でした。

第1部・対談により、乳幼児期から成人後までのライフステージにわたる家族・学校・施設・社会での様々な関わりについて、被虐待当事者からの貴重なお話を伺いました。

第2部・シンポジウム「こども支援の

今ー子どもに寄り添い支える繋がりとは？」として2名の先生方から実践報告をお話いただきました。

第3部「クレストーク・みんなまで日からの支援を考えよう！」では、会場参加者からの質問を基に先生方の対話が拡がり、ホールに集う皆で明日からの支援の在り方を考える結びの時となりました。終了後には、「子どもから大人まで、保育・支援の実践者と関わる和泉さんならではの「長い・広い視点から初めての切り口の研修でした」とのお声をいただき、あらためて本学の特色・役割について考える機会となりました。

当日ご登壇くださった皆様、ご後援・ご協力くださった相模原市、(二社)相模原市幼稚園協議会、町田市私立幼稚園協会、町田市認定こども園協会、神奈川県児童福祉施設職員研究会、(一社)横浜ファミリーホーム連絡協議会、さがみの里親会、(NPO法人)東京都養育家庭の会みどり支部等々の皆様、ご参加くださった御礼申し上げます。

次年度も本学の特色を生かし取り組んでまいります。ぜひご参加ください。開催予定日は2025年8月30日(土)。詳細が決まり次第本学ホームページにてお知らせします。



「いずみ祭のコンセプト」

学生部長 横川 剛毅

第55回いずみ祭は、10月26日(土)に開催されました。1,000人を超える方々にお越しいただき盛況でした。準備段階から大切にしていたコンセプトは、①学生主体、②地域とのつながり強化、③学びの成果発表、④ステークホルダーとの連携。この4つです。

まず、①学生主体。学生の各グループが主体的に決めた保育出店で、どのようにしたらより良くなるのかを考えて創意工夫し実践しました。また、和泉クラーク・ホールやキャリアデザインセンターでは、自ら名乗り出た学生たちによる、ダンス、ピアノ演奏、演劇、手遊びや紙芝居と大型絵本、音楽演奏など、さまざまな発表がありました。そして、サークルの自主的な展示や発表や販売などが和泉の特長を体現しました。生き生きとした学生主体の取り組みが、今後さらに多様に増えるように期待しています。

次に、②地域とのつながり強化。さまざまな組織や団体の皆様のご協力くださいました。心から深く感謝申し上げます。敢えてこの誌面に書かせていただくのは、相模原市立弥栄中学校と、由野台中学校の吹奏楽部の皆さんが演奏してくださったことです。中学生の皆さん、本当に素晴らしかったです。演奏していただけて良かった！顧問の先生方も含め感謝感激です。そして、③学びの成果発表。専攻科ヒューマンケア専攻の学びの発表は充

実していました。2年生の教科目「保育・教職実践演習」で、和泉の10の力のなかで、本学での学びで身につけたことなどを可視化して掲示しました。読み応えのある深い内容でした。その他にも1年生のインターンシップの成果などが、しっかりと発表できました。

最後に、④ステークホルダーとの連携。後援会の皆様は、いずみ祭前日準備の日に、ドリンクを差し入れてくださいました。「あれは嬉しかった」という声を学生から聞きました。父母会の皆様からは、父母会報向けの写真撮影その他、さまざまなご尽力を賜りました。同窓会の皆さんが企画してくださった「いずみのひろっぱ」には、お子さん連れの卒業生など延べ300名を超える方々が足を運び交流を深めました。和泉を大切に思い続けてくださる皆様方、誠にありがとうございます。これらのコンセプトを踏まえ、学生がどのように独自のカラーを出していくのか。2025年度のいずみ祭を今から楽しみにしています。この誌面をお読みくださった皆様方、どうぞ来年度のいずみ祭にお越しください！



2024年度表彰者

眞鍋記念奨学金(前期)

2年 千葉 春奈
(日本大学 出身)



和泉のあたたかい皆さまのおかげで、このような素晴らしい賞を受賞させていただき光栄に思います。実習を終え、本学での学びも残ること半年となりました。社会の中で共に価値のあるものを創れる者となるよう、今後目には見えない大切なものを見つけていきたいと思えます。また、新しい学びや環境、支えてくださる方々に感謝の気持ちを持ちながら、今後も尽力して参ります。

2年 齋藤 汐里
(県立霧が丘高等学校 出身)



この度は眞鍋記念奨学金奨学生に選んでいただき、驚きと喜びを感じております。日頃から支えてくださっている先生方や友達、家族など皆様のおかげです。日々学ぶ中で保育の難しさを感じる時もありますが、それ以上に奥深さや面白さを感じることも多く、前向きに楽しく学ぶことができたのだと

思っております。これからは今回の受賞を励みに精進して参ります。この度は本当にありがとうございます。

1年 安田 有花



この度はこのような名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。和泉に入学し、自らの関心のある分野について学ぶことができると同時に、知識や経験の豊富な先生方が揃う和泉で学べることを大変誇りに思っています。この賞を励みに後期からもより一層学びを深め、子どもの豊かな成長に貢献できる保育者を目指し精進してまいります。

1年 北嶋 桜乃
(県立厚木東高等学校 出身)



保育・福祉について学べたこと、様々な活動に参加できたことは、将来に向けてとても充実した日々となりました。後期では前期の学びを活かし、新しい知識を身につけられるよう努力をしています。

きます。またボランティア活動などにもより一層力を入れて参加していきたいと思えます。

専攻科 榎本 愛奈
(県立横浜立野高等学校 出身)



毎日楽しく勉学に励むことができているのは学びやすい環境を作り応援して下さっている先生方、家族、友人のおかげです。これから介護実習Ⅱや国家試験など控えています。残りの学生生活を専攻科の素敵な友人とともに学び、感謝の気持ちを忘れず助け合いながら大切に過ごしていきたいです。

〈学生顕彰制度〉

和泉短期大学学長賞

2年 加藤 奈鈴
(県立相模原総合高等学校 出身)



和泉で行っている「はっぴい」すまいりに数多く参加したことで、子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。これからも子どもたちと楽しく触れ合い、多くのことを学ばせてい

ただきたいと思っております。「はっぴい」すまいり」は子どもと触れ合える素晴らしい場のため、後輩にも良さを伝えていきたいです。

学生ボランティア活動奨励奨学金

2年 本間 星那
(横浜隼人高等学校 出身)



今回このような賞をいただくことができ、嬉しく思います。横地ゼミは私が一年生の頃に発足したゼミですが、二年間で本当に沢山のボランティア活動を行うことができました。赤い羽根共同募金活動や子ども食堂等様々な活動を行う中で、地域福祉について学びを深めることができました。サークル活動は授業で学んだことを活かす場でもあると考えるので、これからも先生や学生達と共にボランティア活動に励んでいきたいと思えます。



人事

就任(2024年10月1日付)
蛭田 佳代 学生支援ユニット(派遣)

休職(育児休業)
島袋 真美 広報渉外ユニット

訃報

故 曾根 賢作 氏

曾根真理子 事務局次長 御尊父(2024年9月4日)
主による平安をお祈りいたします。

卒業生の活躍 (第29回)

スウィーダ世田谷FC

(二〇一九年三月卒業生) 戸田 歩さん

私は現在、プレナスなでしこリーグ一部の女子サッカークラブに所属し、スポンサーであるドラッグストアで働いています。大学卒業後は、サッカー選手兼保育士として、2年間働きました。1年目は0歳児の担任、2年目は障がい児担任として保育をしました。2年目の障がい児担任は1対1だったものの、重度の障がい児だったため、コミュニケーションの取り方、どう心を通わせるかものすごく苦労しました。初めは分からないことばかりで先輩方の保育を見ながら学ぶことがたくさんありました。私はどんな時も笑顔で、自分のことができる、分かなければ聞き、実践することで周りからの信頼を得ることができました。どれだけ積極的に聞き、自主的に行動できるかが、大事だったと思います。子どもは大人の発言、態度、表情全てを見ていますし、子どもは本当に嘘がなく綺麗で、素直だと感じました。日々成長し続ける子どもたちと過ごす時間は、自分の未熟さと向き合え



る素敵な時間だったと思います。今は保育の世界から少し離れていますが、何年後かにはまた保育士としてたくさんの子どもたちと関わっていきたいと思います。30代から保育士復帰は、0からのスタートで不安なことは沢山ありますが、和泉で友達や先生たちと過ごした時間や保育士として働いた2年間は私にとって財産であると感じています。それと共に20年以上続けているサッカーがこれからの私の人生で何か少しでも私の力になると思うので、これからも自分の好きなことに全力投球で頑張っていきたいと思っています。

TOPICS

第26回おもちゃインストラクター養成講座開催

2024年8月23日(金)、第26回おもちゃインストラクター養成講座を開催し学生33名が受講しました。

認定NPO法人 芸術と遊び創造協会のおもちゃコンサルタントマスター 堀江愛子先生のご指導のもと、手作りおもちゃの技術を習得するとともに、世界のおもちゃ文化を知り、日本のおもちゃの現状とその役割を実践的に学びました。今回は、201教室で座学を、午後からは200教室で主に新聞紙を用いた体を動かす遊びを実践、学びました。

受講を終えた全員には、認定NPO法人 芸術と遊び創造協会より「おもちゃインストラクター認定証」が授与され、有意義な講座となりました。次回は次年度、2025年8月の開催を予定しています。



図書館主催の選書ツアー開催

2024年8月27日(火)に図書館主催の「選書ツアー」を開催しました。

「選書ツアー」は学生が「図書館に置いてほしい本」や「学びにしたい本」「友達に読んでほしい本」などを、書店で直接選び購入するイベントです。今回は児童福祉学科1・2年生の図書館サポーターの学生9名が参加しました。

有隣堂伊勢佐木町本店に集合し、有隣堂の方から注意事項と説明を聞いた後、地下1階～5階のフロアを歩き来しながら各自のテーマにそった本を探し、約2時間のツアーはあっという間に過ぎました。

選書ツアーで選んだ本は、図書館サポーターが作る「おすすめメッセージのPOP」と一緒に図書館内に展示されました。



「普通救命講習Ⅲ」の講習会を実施

2024年8月28日(水)、本学4号館リトミック室において、相模原市消防署緑が丘分署のご指導のもと「普通救命講習Ⅲ」の講習会を実施しました。普通救命講習Ⅲは、小児・乳児・新生児を対象とした救命処置(心肺蘇生法・気道異物の除去)を習得します。

2年生、専攻科の学生計30名が参加し、3グループに分かれ実技に取り組みました。これから保育・福祉現場に就職する学生にとって、とても大切で重要な講習を学ぶことができました。

相模原市消防署緑が丘分署の皆様、ご指導、ご協力をいただきありがとうございました。



2024年度第3回サンクスギビングフェア (通算38回目)開催

2024年10月8日(火)に「2024年度サンクスギビングフェア」を開催しました。2014年5月から始まった学生向けフェアは通算38回目となります。

イベント内容

- ・学生食堂 100円ランチプレート 「ハロウィン魔女のオムライスプレート」・「カレーなるインドプレート」
- ・キャンパスコンビニ全商品20% OFF 250円以上購入者にはプレゼント付き

人気の100円ランチプレート(150食)は前売り販売で完売。キャンパスコンビニには大勢の学生が詰めかけ長い行列ができていました。



2024年度第12回保証人会(1・2年生保証人対象)を開催しました

2024年10月26日(土)に第12回保証人会を開催し、17名の保証人の方にお越しいただきました。

佐藤守男学長の挨拶ではじまり、実習サポートセンター長の矢野由佳子准教授より「初めての実習～実習で育つ和泉生～」、学生部長横川剛毅教授より「就職活動と進路支援、学生生活について」、専攻科主任佐藤美紀准教授より「専攻科ヒューマンケア専攻について」の講演を行いました。保証人の皆様に本学の実習、就職活動について理解を深めていただく機会となりました。また成人した大学生の時期であっても、家庭での精神的なサポートの必要性が大変重要であることをお伝えすることができた保証人会でした。

お忙しい中、ご出席くださいました保証人の皆様、ありがとうございます。今後も本学へのご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



第14回(2024年度)「相模原市内高等学校校長及び教育協定校校長との教育研究会」開催

2024年9月11日(水)、第14回(2024年度)「相模原市内高等学校校長及び教育協定校校長との教育研究会」を1号館2階大会議室で開催致しました。ご公務ご多忙の折にもかかわらず、相模原市内の高等学校9校9名、教育協定校1校1名、計10校10名の校長先生等が御出席くださいました。

当日の話題提供「保育・児童福祉・子育て分野における多様な協働と連携の必要性～多様な人との出会いを支える高大接続連携・他校種連携の取り組みから考える～」(入試広報委員会 松山洋平教授・星早織専任講師)の講話をもとに、各テーブルで意見交換を行い、活発なご意見・ご報告をいただきました。併せて、本学の3つのポリシーを踏まえた取り組みの外部点検・評価にご協力をいただきました。



2024年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります但し本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金目標金額 3,000,000円
募金募集期間 2024年6月～2025年3月(第7期)
募金金額 1□5,000円
払込方法 郵便振替口座
口座番号 00280-6-105705
口座名 学校法人 和泉短期大学
愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2024年8月1日～2024年11月20日>

小椋 郊一/北島 緑/雑賀 えり子/佐藤 蘭美/志村美佐子/杉田 美香/曾根真理子/同窓会いずみ/戸田 美穂/中島 弘光/中畑 宏幸/松田 壯吾/宮本 和武/匿名希望(4件) 以上17件 700,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人
和泉短期大学 庶務ユニット(法人担当)
 042-754-1133

2024年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学校」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2024年5月に学校法人和泉短期大学は創立68年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は20,224名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2024年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業

- 1号館 教室プロジェクター交換工事
- 1号館 教室教卓周辺機器の整備
- ICT環境の整備

寄付者一覧(敬称略) <2024年8月1日～2024年11月20日>

池田 悦子/小椋 郊一/北島 緑/雑賀えり子/佐藤 蘭美/志村美佐子/杉田 美香/曾根真理子/中畑宏幸/中村敏明/松岡 裕/宮本 和武/山田亜希子/匿名希望(3件) 以上16件 230,000円

募金目標金額 10,000,000円
募金募集期間 2024年6月1日～2025年3月31日(第13期)
募金金額 1 個人 1□ 5,000円
 2 法人 1□ 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人
和泉短期大学 庶務ユニット(法人担当)
 042-754-1133

相模原市オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンに協力

11月からの児童虐待防止推進月間に先立ち、2024年10月23日(水)16:45～17:00に相模原市長を訪問し、児童福祉学科の全学生が作った児童虐待防止のシンボル「オレンジリボン」2,000個を、学生を代表して和泉短期大学児童福祉学科2年の副島彩羽さんと須藤陸斗さんから本村賢太郎相模原市長に手渡しました。

相模原市に寄付されたオレンジリボンは、相模原市内の児童虐待通告(相談)窓口のある各区の子育てセンターや児童相談所に置かれ、また11月2日(土)にアリオ橋本、11月4日(月)にイオン相模原、11月10日(日)のSC相模原と17日(日)のノジマステラ神奈川相模原のホームタウンゲームの際に、相模原ギオンスタジアム前のブースにて、相模原市の用意した啓発グッズと一緒に配布しました。

和泉短期大学は、「オレンジリボン運動」(児童虐待防止推進活動運動)に賛同しており、2009年より相模原市のオレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンに協力し、児童虐待防止に向けた活動を全学あげて支援・推進しています。



相模原市・本村相模原市長へオレンジリボンを手渡した様子

SC相模原ホームゲームにおいて託児室を開設

このたび、SC相模原より協力依頼があり、学校法人和泉短期大学と株式会社オハラと、株式会社スポーツクラブ相模原の相互協力のもと、相模原ギオンスタジアムにて開催される明治安田J3リーグのSC相模原ホームゲームにおいて託児室をトライアルにて開設することとなりました。

託児室の保育者は、和泉短期大学同窓会の協力により卒業生が従事し、ボランティアスタッフとして学生も参加します。

2024年10月6日(日)北九州戦から託児室をトライアルにて開設。以降の託児室開設日はSC相模原公式ページで確認することができます。

